



つくばみらい市立小絹小学校
平成24年度 学校だより 第5号
2012年11月14日 発行

豊かな心の育成と学力向上を目指して

銀杏の葉もだいぶ色付き秋が深まってまいりました。日頃より学校教育活動に御協力をいただきましてありがとうございます。

さて、2学期は大きな行事として、運動会に始まり、観劇会、教育相談、マナーアップあいさつ運動、PTAバザーと続きまして、大変にお世話になりました。また、市音楽会では、6年生の歌声が一つにまとまり、すばらしい発表ができました。子どもたちは、行事を通して、大きく成長した姿を見せていました。

学校では、豊かな心の育成と学力向上を目指して一層努力したいと思っております。11月16日の研究発表会に向けて、子どもたちは学習に集中して取り組んでおります。今後とも、どうぞ御支援のほどよろしくお願いいたします。



◇芸術鑑賞会 10月5日(金)

- 第一部 1・2・3年生「泣いた赤おに」
- 第二部 4・5・6年生「走れメロス」

【1年保護者】

子どもは特に青おにについて「青おにはやさしいね」「青おにはかわいそうだった」「赤おにと会えなくなつてさみしいだろうな」などと話していました。赤おにも青おにも、人間と友だちになれたら一番よかったのに・・・と思ったようです。今回、この作品に触れて、青おに、赤おにの気持ちなどを一緒に子どもと考える機会もありました。子どもの実際の友達関係でも、様々なことがあると思いますが、友達の気持ちに寄り添って、仲良く友達関係を築いていってほしいと願います。学年が上がっていくと、友達関係が複雑になることもあると思いますが、話を聞いたり助言などをしながら、サポートできたらと思います。

【2年保護者】

5年生と2年生の娘から、それぞれの劇の感想を聞きました。二人とも今回の物語は、本で読んだことがありませんでしたが、劇で見たことを説明してくれました。「走れメロス」については、メロスが友だちのために、あきらめずに最後まで走ったこと、それを待つ友だちは、もしメロスが来なかったら自分が犠牲になると勇気をもって待っていたこと、そして二人が再会したときに、途中であきらめそうな気持ちになったり、疑ったりしたことを二人とも正直に告白したことを語ってくれました。「泣いた赤おに」では、人間と友だちになりたい赤おにのために、青おにが悪役になって村で暴れたこと、赤おには人間の女の子と友達になり、そして青おにからももらった大切なものを女の子にあげたこと、それを見ていた青おには悲しくなって、赤おにのもとからいなくなってしまったこと、それに気付いた赤おには悲しくなって泣いてしまったことを語ってくれました。娘は二人とも、今回の物語から「友情の大切さ」「友達を大事にすること」が分かったと言っていました。娘たちが普段読む本は、絵がかわいいとか、内容が楽しいといった本ばかりでしたが、今回のような話でも、興味をもって聞くことができ、そして物語が伝えたかったことを理解できることが分かりました。これからも、いろいろな本や物語に興味をもってもらいたいです。

【3年保護者】

親友と友達、どちらもほしい赤おにを見て、人間の友達がほしかった。しかし、帰るところは青おにだったことに気付いたところで、一緒に泣いたようです。赤おにの気持ちも分かるけど、青おにの気持ちを考えることが大事だったのではないのでしょうか。どうして両方が選べる方法を考えなかったかと子どもと考えました。それから、友達も大切だけど「親友」とは、もっと大事なものだと言いました。

◎学校教育目標 『 自主的で 実践力のある 心豊かな子どもを育てる 』

◎学校経営方針 『 見えるように 続けられるように 熱意・誠意・創意 』

【4年保護者】

劇を見た子どもの話から、憎しみをもっていても、がまんしなければならないし、人間は大きな心をもたなければいけないということを学んだようです。なかなか、このような話は聞いただけでは分からないので、劇を通して分かりやすく表現されていて、理解しやすく、子どもがとても勉強になったと感じました。劇は、メロスの妹の結婚式のシーンがとても楽しく印象に残ったようです。人に対して、憎しみをもたないで、やさしさをもって生きていこうと思ったと子どもが話していたので、劇を見てよかったと思いました。また、子どもとこのような話をもつ機会ができてよかったです。

【5年保護者】

子どもの話を聞いて、はるか昔に教科書で読んだ記憶がよみがえってきました。メロスとセリヌンティウスの間の友情や信頼関係が、どのように劇中で描かれていたのかは分かりませんが、いじめ等の問題で殺伐とした昨今、子どもたちの心に何か訴えるものがあったのではないかと思います。(真の友情とは何か・・・等々)約束を守ることイコール走るということとしての分かりやすさもよかったと思います。残酷な王も、二人を見て改心したあたりなども、まっすぐに正しいことを貫くことによって、周りの人たちの心も変えることができるという、現代に通じるメッセージを帯びており、作品の選択もよかったと思います。今後も継続して開催していただけたらと思います。

【6年保護者】

何度か劇を見せたことはありますが、やはり子どもには受け入れやすかったのか、私にも分かりやすく最初から最後まで説明してくれました。登場人物の動きが不思議だったり、ドレスがきれいだったり、そのまま目に入ることも記憶に残ったようですが、自分の命より友人との約束を守ったこと、最後はだれも死ななかったことなどが感動したようです。子どもから、この話について聞かされたとき、改めて信じる心、約束の大事さ、友達の大切さに気付きました。もう一度、本を読んで子どもたちと話し合ってみようかなと思いました。

◇マナーアップキャンペーン 11月1日(木)～11月8日(木)

11月1日(木)に、マナーアップキャンペーンが行われました。朝(7:30～8:00)四つの場所(小絹駅前・小絹小学校正門前・コミセン前交差点・小絹中学校前)に児童が自作したのぼりを立て、行き来する人に手作りのしおりを手渡ししながら、明るいあいさつを呼びかけました。

参加者は、5・6年の計画委員・保護者・青少年育成小絹支部・教職員で、小絹中学校とも協力して実施しました。



◇つくばみらい市小中学校音楽会 11月7日(水)

今年度の「つくばみらい市小中学校音楽会」は、つくばみらい市総合運動公園体育館で午前9時～12時まで行われました。小絹小学校は6年生全員による合唱で、「Keep Smiling!」と「街は 光の中に」の2曲を歌いました。2曲とも一人一人が一生懸命にがんばりとてもすばらしい合唱でした。6年生はこれまで市音楽会に向けて、毎日一生懸命練習をしてきました。本当によくがんばりました。



